

適正規模になってよくなること

クラス替えなどで、たくさんの友達ができる。

- ・交友関係や活動範囲が広がる。
- ・大きな集団での学習活動や小グループでの学習活動など多様な学習形態に対応できる。
- ・たくさんの出会いを通して様々な経験ができる
- ・多くの友達や教職員と接することで多様な価値観が生まれる。
- ・運動会や音楽会などの学校行事で幅広い教育活動を展開できる。

教員の数が増える。

- ・授業の進め方や学級運営について情報交換や相談がしやすくなる。
- ・多くの目で学年の子供たちを把握し、協同して指導できる。
- ・校務の分担ができるようになり、子供と向き合う時間が取りやすくなる。

小規模校対策を進めるにあたって

学校再編に伴う通学負担

通学区域は、一般に、学校の規模、学校施設の受入能力、児童の通学負担、地域の状況などを総合的に考えて定められているため、学校統合や校区再編を進める際には、安全な通学路や、負担のない通学距離の確保を検討する。

小規模校存置

農村部等、小規模校として特色を活かしながら存置するほうが妥当と考えられる場合は、小規模校の課題の対応策を検討する。

再編後の跡地利用

幅広い視点（子供の健全育成、まちづくり、経済効果等）を組み込み、行財政需要と地域の活性化を考慮した跡地活用を検討する。

学校施設の計画的整備と学校再編

学校施設の建替えや大規模改修を計画的に進め、中長期的な学校再編の目標を検討し、それと整合性を保ちながら、進める。

小規模校対策で大切なこと

学校は

子供たちの未来を育む
大切な教育の場所です

そして、学校は・・・

地域コミュニティの核

としても重要な役割を果たしています。

そのため、学校関係者、保護者、地域住民、および行政が将来を見据えて学校や地域の課題を考えていくことが必要となります。

子供たちは地域によって育てられている、という視点を大切にしながら、よりよい教育環境が整備されるよう取り組みを進めていきます。



United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization

City of Design
KOBE

Member of the UNESCO Creative Cities Network since 2008

〒650-8570 神戸市中央区加納町6丁目5番1号
神戸市教育委員会事務局総務部学校計画課 TEL: 078-322-5772
神戸市広報印刷物登録 平成26年度第137号 (広報印刷物規格 B-1類)



古紙配給率70%再生紙を使用しています



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。

子供たちの輝く未来のために



～学校の適正規模化に向けて～

神戸市では全国的な流れと同様、少子化が進み、小学校に通う子供たちの数も減っています。

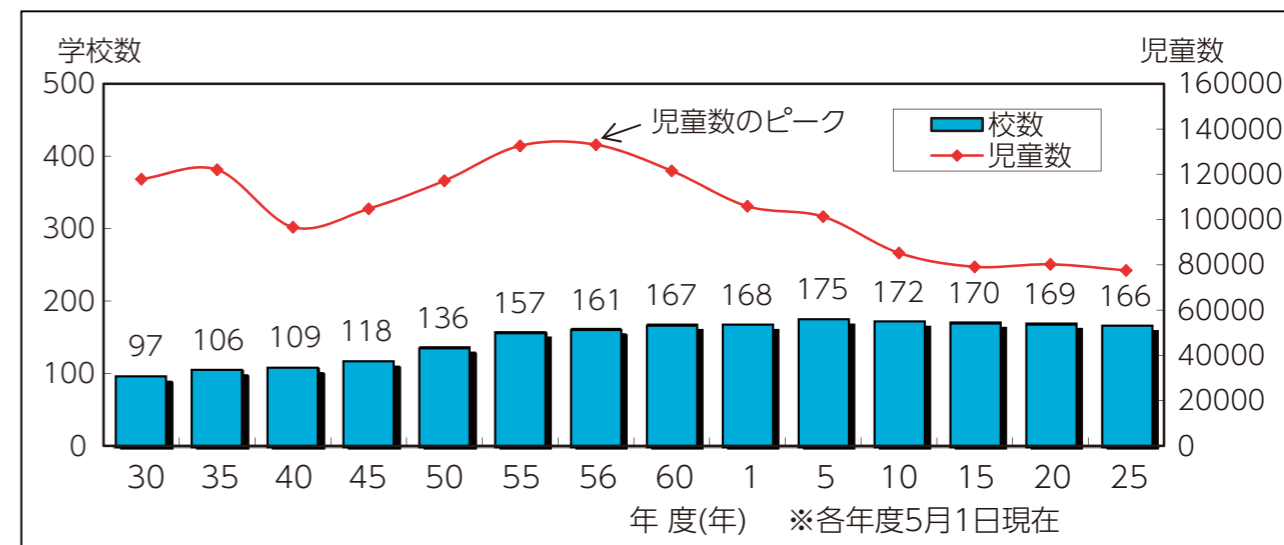
そのため各学校の子供の数が少なくなり、1学年に1クラスとなってクラス替えができない小規模校と呼ばれる学校が増えてきています。小規模校はよい面もありますが、課題となる点も指摘されています。

小規模校が増えていく中、子供たちにとってよりよい教育環境を目指していくため、学識経験者を委員とする「神戸市立学校園のあり方懇話会」が設置され、平成22年4月に神戸市へ提言いただきました。

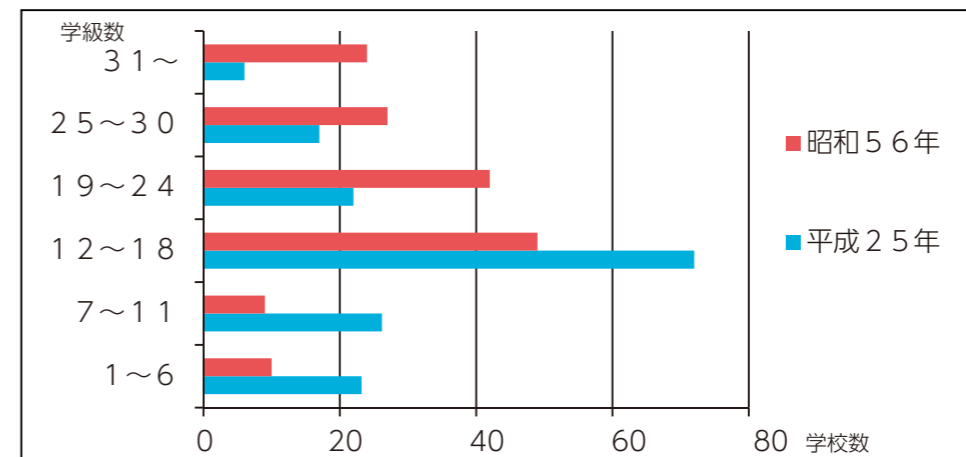
神戸市では提言に基づき、子供たちの教育環境を向上させるため、学校の適正規模化を進めていきます。

小学校の現状と課題

★神戸市立小学校の児童数・学校数の推移



★神戸市立小学校の学級数別学校数の推移



児童数はピーク時より約4割以上の減!

133,077人 (昭和56年度) ⇒ 77,554人 (平成25年度)

| 小学校数の推移 | 小規模校数の推移 |
|-------------------------------------|-----------------------------------|
| 161校 (昭和56年度) ⇒ 166校 (平成25年度) | 19校 (昭和56年度) ⇒ 49校 (平成25年度) |

適正規模の小学校 12～24学級
※いずれかの学年で単学級が生じる11学級以下の学校を小規模校と位置付ける。

★なぜ適正規模の学校がよいの？

小規模校の良さ

- ・ 友だち同士よく知り合える。
- ・ 上級生・下級生の縦のつながりが深くなる。
- ・ 一人ひとりきめ細やかな指導ができる。
- ・ 教師と子供の関係が親密になり、アットホームな雰囲気になる。
- ・ 集団としてまとまりやすい。
- ・ 一人一人の活躍の場が増える。



など、良い面もありますが

小規模校の課題

教育面での課題

- ・ 集団における役割が固定化しやすい。
- ・ 人間関係につまずいた時の修復が難しい場合がある。
- ・ 運動会・音楽会などで、多人数で力をあわせる機会が得にくい。
- ・ 学年1クラスでは高学年の教科担任制や合同授業などいろいろな授業の工夫が難しい。

学校運営面での課題

- ・ 教員数が少なくなり教員1人あたりの校務が多くなる。
- ・ 保護者の数も少なく、PTA活動においても負担が大きくなる。



など、教育環境を良くするために教員や保護者が一生懸命カバーしなければいけない課題もあります。

取り組みについて

神戸市は大きく三つの地域に区分され、それぞれの地域で学校の特徴があります。

旧市街地の学校

- ・ 明治・大正期に設置された歴史と伝統のある学校が多い。
- ・ 学校は比較的、学校間の距離が近接しており、敷地が狭く老朽化が進んでいる。
- ・ 昔ながらの自治組織が強く、それに基づいて地域が形成されている場合が多い。

ニュータウンの学校

- ・ 校舎の建築年数が比較的新しく面積規模も確保されており、建替対象となりにくい。
- ・ 小学校間の距離が比較的遠い。
- ・ まちづくりの基本方針として小学校が計画的に配置されている。

農村地域等の学校

- ・ 主として西北神の農業地域に位置し、神戸市との合併前の町村が設置した学校が多く、学校間の距離は比較的離れている。
- ・ 農村地域から都市部への人口流出により小規模化が進んでいる。

神戸市は子供たちのために学校の適正規模化を進めていきます

☆これまでの考え方

- ・ 旧市街地の学校・・・統合により望ましい規模に再編成
- ・ ニュータウンの学校・・・統合を中心とした取組み、ニュータウン全体として通学区域の変更や弾力的運用
- ・ 農村地域等の学校・・・小規模校のメリットを活かしつつ、デメリットを解消



☆これからの考え方

- ・ 「統合」、「校区調整」、「小規模校存置」といった学校適正規模化に向けた様々な政策を検討し、学校や地域の状況や特色に応じて、効果的な組合せにより最もふさわしいと考えられる方法を選択し、可能なところから小規模校対策を進めていく。
- ・ 児童数の見通しや地域・学校の状況・特色を踏まえ、10年程度の中長期を見渡した再編方針を検討していく。

